

知的障害のある子どもの「深い学び」を 実現する授業づくりのポイント



本研究で得た知見を基に、知的障害のある子どもの「深い学び」を実現する授業づくりのポイントとしてまとめました。本校が作成した、授業づくりのツールや資料との関連は、★印で示しています。

この内容は、一人一人の教師の個性や専門性を軽視するものではありません。本資料の内容に先生方の個性や専門性を上乘せして、子どもたちの「深い学び」の実現に向けた授業づくりに取り組んでいただきたいと思います。

授業の計画段階（PLAN）

① 実態把握・単元（題材）の教育内容の選定

- できないことや難しいことだけでなく、児童生徒がしていることは何か、できることは何か、どんな支援があればできるのか、興味・関心は何かなど、できること、得意なことにも着目して児童生徒の実態を把握しましょう。
- 児童生徒の既習事項や生活との関連、単元（題材）の年間指導計画を基に、単元（題材）で扱う教育内容を選定しましょう。
- 単元（題材）で扱う教育内容は、個に応じたどの段階の内容を身に付けることができるようにするのか選定することが重要です。選定した教育内容に関する児童生徒の実態を確認し、必要に応じて扱う教育内容を見直しましょう。

※ 教育内容を選定した段階で、年間指導計画に整理された学習活動や各教科の特質に応じた学習活動も把握しておくことで、よりよい目標設定につなげることができます。

参考にする資料等

- ・ 個別の指導計画
- ・ 個別の教育支援計画
- ・ これまでの学習ファイルの内容
- ・ 単元（題材）の年間指導計画
- ・ 学習指導要領

The image shows a screenshot of a lesson plan sheet titled '授業計画シート（ツール3）'. The sheet has several columns and rows. Two columns are highlighted in blue: the column for '単元（題材）' (Unit/Topic) and the column for '学習活動' (Learning Activities). Blue arrows point from these highlighted areas to callout boxes on the right.

単元（題材）で扱う教育内容の選定

年間指導計画で示されている学習活動や各教科の特質に応じた学習活動の確認

授業計画シート「ツール3」との関連

② 単元（題材）の全体目標と個人目標の設定

- 選定した教育内容を基に、単元（題材）の全体目標を設定します。年間指導計画の全体目標を参考にしますが、学習グループの児童生徒の実態に応じたものであるか検討が必要です。
- 設定した全体目標を基に、個人目標を設定します。それぞれの児童生徒に選定した教育内容に応じて設定することが重要です。

参考にする資料等

- ・ 単元（題材）の年間指導計画
- ・ 学習指導要領
- ・ 個別の指導計画

The image shows a screenshot of a lesson plan sheet titled '授業計画シート（ツール3）'. The sheet has several columns and rows. Two columns are highlighted in blue: the column for '単元（題材）' (Unit/Topic) and the column for '目標' (Objectives). Blue arrows point from these highlighted areas to callout boxes on the right.

単元（題材）の全体目標の設定

単元（題材）の個人目標の設定

授業計画シート「ツール3」との関連

③ 教科等の見方・考え方と「深い学び」の姿の設定

- 各教科等の見方・考え方は、教科の本質であり、「深い学び」を実現する鍵です。「見方・考え方一覧表」や学習指導要領を参考にしながら、単元（題材）で児童生徒が働かせる見方・考え方を検討し、設定します。
- 選定した教科等の見方・考え方を働かせながら、どのような学びの過程をたどると教育内容をよりよく身に付けることができるか、「本校の子どもの『深い学び』の姿のイメージ」を手掛かりにして、単元（題材）における、「深い学び」の姿を設定します。

参考にする資料等

- ★ 見方・考え方一覧表 **ツール1** ★ 本校の子どもの「深い学び」の姿のイメージ **ツール2**
- ・ 学習指導要領

授業計画シート**ツール3**との関連

単元（題材）で働かせる見方・考え方の設定 **ツール1**

単元（題材）における「深い学び」の姿の設定 **ツール2**

④ 学習活動と「深い学び」を実現するための工夫の設定

- 学習グループの児童生徒の単元（題材）に関する学習上の課題や生かすことができる有効な学び方などを整理し、学習上の特性等の欄に記入します。個の実態であっても、取り入れることで他の児童生徒の学びにも有効な内容も記入します。
 - 年間指導計画や『深い学び』を実現するために有効だった工夫」を基に、学習上の特性等の記入内容を踏まえ、学習活動と「深い学び」を実現するための工夫を記入します。
- ※ 学習指導要領の内容を参考にして、主体的・対話的な学びとの関連も図りましょう。

参考にする資料等

- ・ 学習指導要領 ・ 個別の指導計画 ・ 個別の教育支援計画
- ★ 「深い学び」を実現するために有効だった工夫 **ツール2**

授業計画シート**ツール3**との関連

単元（題材）に関する学習上の特性等の記入

学習活動の記入 **ツール2**

「深い学び」を実現するための工夫の記入 **ツール2**

⑤ 授業計画の確認

- 学習グループの児童生徒の実態に合ったものであるか、授業計画で必要な情報が出そろった段階で再度授業計画シートに記入した内容を確認し整合性をとることが重要です。
- 授業計画シートは、授業づくりに必要な情報を1枚のシートで把握できるという利点があります。単元（題材）開始前に、完成した授業計画シートの内容を基に授業者間で確認しましょう。一方、個別の指導及び支援については、捉えづらい側面もあります。立ち位置や具体的な支援方法などの必要な情報は、授業前にCT（チーフティーチャー）からST（サブティーチャー）に確実に伝えるようにしましょう。

授業の実施段階（DO）

① 授業計画シートを活用した授業実践

作成した授業計画シートを基に、授業実践をします。授業を担当する授業者間で、目標や本時で児童生徒が働かせる見方・考え方、設定した「深い学び」の姿、指導及び支援などを確認した上で、授業を行うことが大切です。

② 授業の撮影

授業中に見られた児童生徒の姿を全て記録することは、なかなか難しいことです。その点で、授業動画の撮影は、子どもの「深い学び」の姿の見取りや教師の指導及び支援の有効性を確認するためにとっても有効です。日頃の授業や、単元（題材）の中で撮影する授業を決め定期的に撮影しましょう。

授業の評価段階（CHECK）・授業の改善段階（ACTION）

授業研究の実施

- 単元（題材）の途中で、「日々の授業記録」を活用した授業研究に取り組みましょう。児童生徒の学びの姿から授業改善を図る取組は「深い学び」の実現にとっても大切です。一人で行う授業研究や授業者間で行う授業ミーティングを定期的に行うようにしましょう。
- 一定の集団（本校は学部全職員で実施）で取り組む授業研究会を実施しましょう。子どもの学びの姿について、複数の視点から検討することで、より妥当性の高い授業改善につなげることができます。
- 授業研究では、設定した見方・考え方や「深い学び」の姿の視点からも児童生徒の学びの姿を見つめ、資質・能力をよりよく身に付けるための学習過程の充実を図りましょう。

参考にする資料等

- ★ 授業ミーティングマニュアル
- ★ 日々の授業記録
- ★ ファシリテーターマニュアル
- ★ 授業研究会模造紙

※ 授業実践で見られた、「深い学び」の姿や有効だった学習活動、指導及び支援などは、集約し、他の授業に生かしたり、年間指導計画に反映して次年度のよりよい授業づくりに生かしたりすることができるようにしましょう。